

技術取り組み14件報告

大豊建設がフォーラム

大豊建設は、東京都中央区の本社で10月30日に第25回技術フォーラムを開いた。「橋梁下部工の温度管理によるひび割れ抑制」など14件を報告。支店を含む全社員にオンライン配信した。

技術フォーラムに先立ち、大隅健一社長は「他社と差別化を図るのが技術だ。先輩が残してくれた貴重な技術を守り進化させる必要がある。同時にこれを使いこなせる技術者を育成し、次の世代につなげていかなければならない。発表会を通じて日々の業務に生かしてほしい」と呼び掛けた。写真。



技術フォーラムの寺田典生委員長は「技術発表の内容が次の世代の基礎技術になればと期待している」と話した。

発表では高速道路上の換気塔解体やICT（情報通信技術）を活用した業務の効率化、シールドトンネル分野のi-Construction、建築物のZ E

技術を通して社会に貢献

第25回技術フォーラム開く 大豊建設

大豊建設は10月30日、東京中央区の本社で第25回技術フォーラムを開催した。社員一人ひとりの技術力、営業力、施工力などの能力向上を目指すとともに、得られた情報をもちに、全社的な総合技術力の向上に結びつけることを目的として毎年開催している。今年も新型コロナウイルス感染症対策として、会場参加を発表者など必要最小限に絞り込むとともに、Zoomで配信し全社員が

視聴できるようにした。支店や同社技術研究所などから14件の発表があったほか、京都大学生存圏研究所生活圏構造機能分野の五十田博教授が「木材の利用推進と木材を用いた建築のこれから」と題し、特別講演を行った。冒頭挨拶にたった大隅健一社長は「写真は、技術を通して社会に貢献す



ることが我々の使命である。ニューマチックケーソン工法や泥土加圧シールド工法などは開発から50年を経過し、いまだ色あせず、多様なニーズにこたえ採用され続けている。先人が残してくれた技術を守り、進化させ、使いこなせる技術者を育て、次の世代につなげていきたい。当フォーラムで得た情報を皆で共有し、これからの技術開発のタネを見つけてほしいと述べた。

発表内容は次の通り（敬称略）。
▽橋梁下部工の温度管

理によるひび割れ抑制（東北支店・阿佐見圭介、前河豪）▽高速道路上の換気塔解体（名古屋支店・影廣正明、神尾達也）▽ICTを活用した現場における業務の効率化と課題（名古屋支店・青山正、石原哲哉）▽建築躯体工事における効率を考慮した仮設計画について（大阪支店・吉野隆之、宮川征文）▽シールドトンネル分野におけるi-Constructionの取組事例（東京土木支店・鈴木高広、星恵輔）▽硬質岩盤におけるニューマチックケーソン基礎の沈設（九州支店・井岡洋介、福田浩二）▽現場支援システム「TOOLS」を活用した施工管理（東京建築支店・前田奨、有吉正博）▽軟弱粘性土層における凍結工法を補助地盤改良とした大口径刃口推進工法（東京土木支店・濱ノ園

剛、星恵輔）▽技術研究所の木質化と施工報告（建築本部・小林卓也）▽建築物のZ E B化推進に向けた取り組み（東京建築支店・長谷川咲佳、山岸善行）▽供用中の下水処理場内におけるシールド工事（大阪支店・渡部慎司、山下学）▽狭小箇所での

既設スラブ・壁撤去作業について（森本組・高瀬正、國近光生）▽鋼管矢板圧入工の改良型機械式継手使用による生産性の向上について（東京土木支店・鈴木幹文、星恵輔）▽開発研究案件の報告（技術研究所・内田哲男、長谷川春生）。